

提案提出元	個人
-------	----

項目	ご意見	
1. 周波数オークションを導入する際に検討すべき論点についてどのように考えるか。	<p>透明性・公正な競争を歪められないよう考慮すべき</p> <p>ア. 加入者一人当たりが使用できる帯域の公平性</p> <p>イ. 特定の有力事業者による買占めが起きないように考慮</p> <p>ウ. 透明性が高く公正な市場原理の導入</p>	
2. 論点に対してどのように考えるか。	番号	ご意見
	5(1)① 及び②	<p>5MHz 単位での周波数ブロックの設定</p> <p>割り当て可能最大ブロックの限定</p> <p>入札可能ブロック数の限定で課題回避すべき</p>
	5(2)①	<p>財務内容による参加資格制限や補償金の設定などで</p> <p>割り当て後の倒産などの問題を回避すべき</p>
	5(2)④	<p>添付資料にて記述</p>
3. その他 (留意事項や情報提供など)	<p>運用システム(LTEなど)と割り当てが国際的な(LTEなどの)市場と最大限合致し、メリットが最大になるよう考慮すべき</p> <p>※個人見解の為、氏名に関する個人情報については非公表としてください。</p>	

5 制度設計

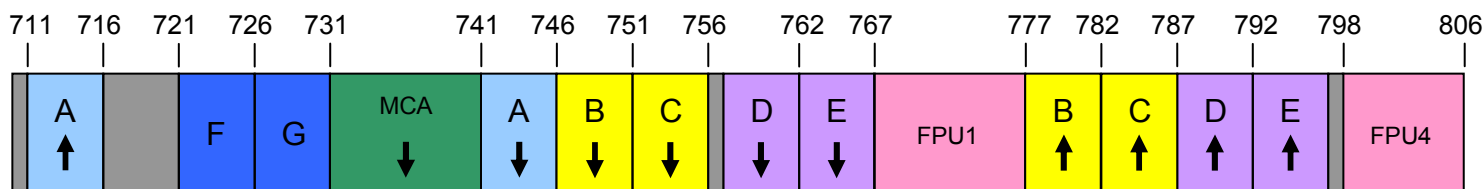
(2) 具体的な実施方法をどのようにすべきか。

④ 入札方法、入札状況の公表方法等(システム開発を含む。)

案

-
1. オークションに先行して11の周波数ブロックを設計(※スライド2以降に記載)
 - a. 運用システム(LTEなど)と国際的な市場と該当周波数帯で合致
 - b. a.の条件で世界の市場性が最大限になるよう配慮
 2. 最低落札価格の設定(※5(2)③)
 3. 割り当てを希望する事業者に対し割り当て可能最大ブロックを以下に限定(※5(1)②、5(2)①)
 - a. 加入者数2000万以上 3ブロックまで
 - b. 加入者数1000万以上2000万未満 2ブロックまで
 - c. 加入者数1000万未満 1ブロックまで
 4. 入札は複数回行う
 5. 一回の入札で入札可能なブロック数は2ブロックまでにする(※5(1)①の回避)
 6. 割り当てを希望する事業者はブロック毎にブロック名と金額を記載する(※5(2)②)
 4. 希望が重なった周波数ブロックに対して落札者を決定
 5. 初回の入札から漏れた空きブロックに対して2回目の入札
 - a. 初回の入札で割り当て可能最大ブロック分を落札した事業者は2回目以降の入札権利なし
 - b. 初回の入札で割り当て可能最大ブロック分に満たないブロック数を落札した事業者は残りの入札権利分のブロック数入札可能
 6. 以後繰り返し
 7. 最終的に空きブロックが発生した場合は、割り当て可能最大ブロック制限を外して全ての希望事業者で入札
-

700MHz Band Plan



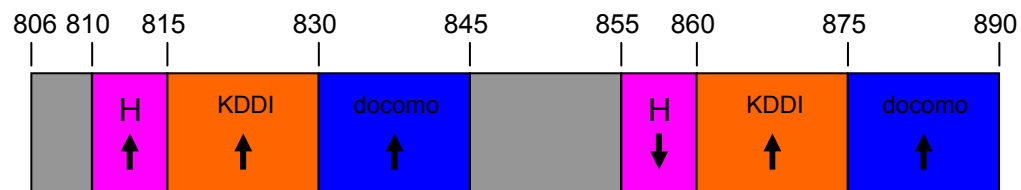
	Frequency (MHz)		Bandwidth (MHz)	Duplex Mode	Compatibility
	Uplink	Downlink			
Block A*1	711-716	741-746	10 (5MHz x 2)	FDD	USA700(B12,B17), China700
Block B	777-782	746-751	10 (5MHz x 2)	FDD	USA700(B13)
Block C	782-787	751-756	10 (5MHz x 2)	FDD	USA700(B13)
Block D	787-792	757-762	10 (5MHz x 2)	FDD	USA700(B14)
Block E	792-798	762-767	10 (5MHz x 2)	FDD	USA700(B14)
Block F*1,*2	721-726		5 (5MHz x 1)	TDD	India700, (China700)
Block G*2	726-731		5 (5MHz x 1)	TDD	India700, (China700)

*1 放送システムとの干渉がある為、51ch、52hで放送サービスを行っている地域は新システムの運用を禁止する等の措置が必要

*2 TD-LTEまたはITSでの運用を想定

	Frequency (MHz)	
MCA	731-741	900MHz帯MCA移行と同時に800MHz帯MCAを同帯域に移行し、800MHz帯に新帯域を確保する
FPU1	767-777	FPU2帯は廃止 FPU1帯を同帯域で運用
FPU4	798-806	FPU4帯は保持 FPU4帯をサポートしているシステムは移行費用負担対象外

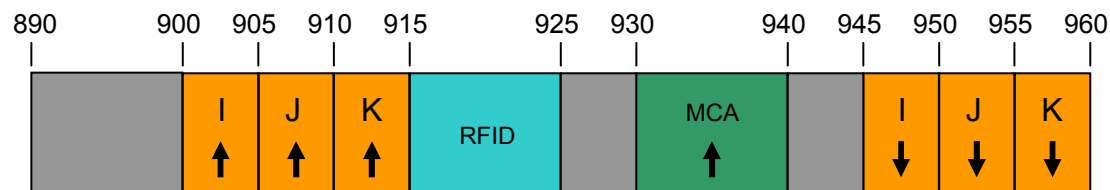
800MHz Band Plan



	Frequency (MHz)		Bandwidth (MHz)	Duplex Mode	Compatibility
	Uplink	Downlink			
Block H	810-815	855-860	10 (5MHz x 2)	FDD	LowerE850

	Frequency (MHz)	
MCA	731-741	900MHz帯MCA移行と同時に800MHz帯MCAを同帯域に移行し、800MHz帯に新帯域を確保する

900MHz Band Plan



	Frequency (MHz)		Bandwidth (MHz)	Duplex Mode	Compatibility
	Uplink	Downlink			
Block I*3	900-905	945-950	10 (5MHz x 2)	FDD	EU900(B8)
Block J	905-910	950-955	10 (5MHz x 2)	FDD	EU900(B8)
Block K	910-915	955-960	10 (5MHz x 2)	FDD	EU900(B8)

*3 2012年から使用可能

	Frequency (MHz)	
MCA	930-940	900MHz帯MCAを移行し、900MHz帯にBAND8互換帯域を確保する
RFID	915-925	

700-900MHz帯域全体で新たに11ブロック100MHzの帯域を創出

■ 700MHz帯において合計60MHzの通信事業向け周波数を確保

- 内訳 FDD用に50MHz、TDD又はITS用に10MHz
BlockA~Gの全7ブロックを設定
BlockA LTE700の最大市場である北米700(AT&T)とLTE、中国700MHz案と互換性
BlockB,C LTE700の最大市場である北米700(VerizonWireless)とLTEで互換性
BlockD,E FCCオークション92ブロックDと互換性あり
BlockF,G 世界市場1位、2位の中国、インドとTD-LTEでの互換性を期待

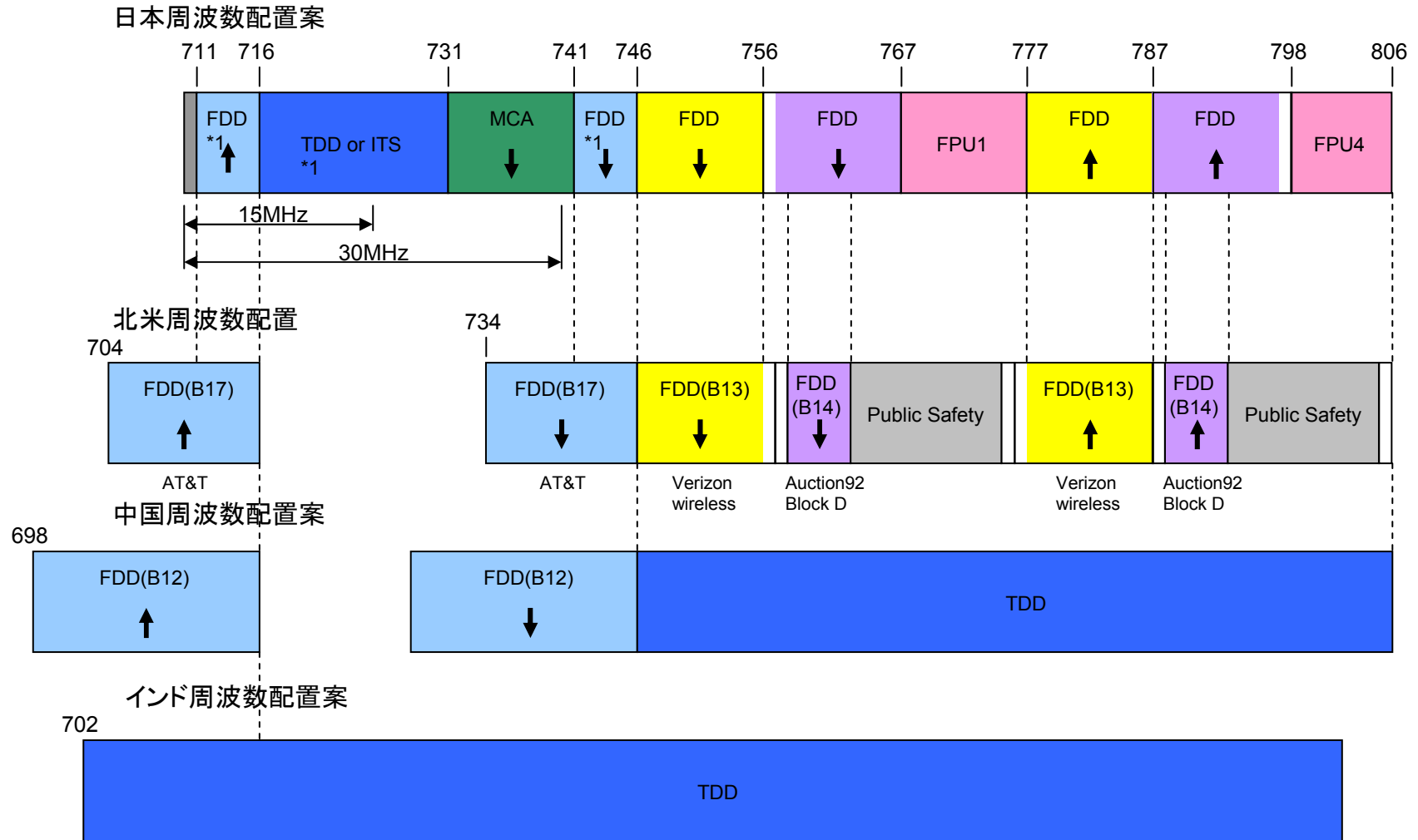
■ 800MHz帯において合計10MHzの通信事業向け周波数を確保

- 内訳 FDD用に10MHz
BlockH LowerE850(南米市場)との互換性

■ 900MHz帯において合計30MHzの通信事業向け周波数を確保

- 内訳 FDD用に30MHz
BlockI,J,K 欧州900とHSPA+及びLTEで互換性あり

参考：世界最大市場と次世代システム(LTE)で最大限の互換性を確保する為に



※700MHz帯をAWF案ではなく北米案としている理由

**AWF配置は中国、インド、米国、欧州の何処とも合っていない
しかも、日本はLTE、他のアジア諸国はHSPA+になってしまう可能性が高い**

1. AWF配置はアジアの巨大市場中国、インドと整合がとれていない
2. AWF配置を指示しているTelestraは非常に小さなキャリアであり、このキャリアの市場としてはとても大きいとは言えない。
しかもTelestra自身LTEでは無くHSPA+を採用してしまう可能性がある。
他のアジア諸国も設備投資の少ないHSPA+へ向かう可能性は高い。
3. 国内の主要キャリアが同帯域を使う場合LTEの可能性が高い。
そうなった場合、配置をそろえてもHSPA+とLTEではシステムが異なる。
4. FDDのLTEを700MHzという条件において、積極推進している一番大きな市場は北米
5. グローバルメーカーのスマートホン対応周波数は、
基本的に北米と欧州という地域に向けてリリースしている。
6. LTE (FDD)のグローバルホンでのLTEミニマムセットの周波数バンドは、
北米700、欧州800/1800/2600である。
中国、インドと合わず、北米700とも合わないAWF配置でのLTE端末を
相手にするメーカーは少ないと思われ、少なくとも700でFDDのLTEを考えるならば、
北米か欧州と合っていなければグローバルのLTEとは言えない。
7. 中国、インドを除くAWF配置を持つアジアの国からiPhoneのような端末が
生まれる可能性は極めて低い